

ほけんニュース

感染性胃腸炎の季節に備えよう！

感染性胃腸炎が多くなる季節を迎えました。予防のためには、手洗いやうがいが大切です。また、感染した場合でも、汚物の処理などを適切に行い、園や家庭内で感染が広がらないように注意しましょう。

● 感染性胃腸炎（ノロウイルス・ロタウイルスほか）

基礎知識

冬に流行するのはノロウイルスやロタウイルスによる胃腸炎です。子どもが冬場にかかる胃腸炎としては、ほとんどがウイルス性によります。ロタウイルスは3歳未満に多く、ノロウイルスに関しては、すべての年齢で見られます。嘔吐や下痢がひどいと脱水症を引き起こすことがあります。

症状

潜伏期間は1～2日です。おもな症状は嘔吐と下痢で、軽い場合には、嘔吐だけ、下痢だけの症状のこともあります。また、あわせて発熱や頭痛、腹痛などが見られることがあります。便の性状は軟便から水様便まで程度によってさまざまです。ロタウイルスの場合は、米のとき汁のような白色便が出ることがあります。



家庭でのケア

受診の目安としては、元気がなく、ぐつたりしている、おしっこの回数が少ない、または出ない、嘔吐がある、腹痛を訴える、唇が乾燥している、血便や水様便が続いている、38℃以上の発熱がある場合には病院を受診します。そのほか、家庭では脱水にならないように、こまめな水分補給を心がけます。

出席停止

病状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認められるまで、出席停止です。



汚物を処理する時の注意

用意するもの

使い捨て手袋、使い捨てマスク（不織布マスク）、エプロンまたは白衣（使い捨てや袖つきが望ましい）、ビニール袋、新聞紙またはペーパータオル（使い捨てぞうきんでもよい）、0.1%次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤は、商品により塩素濃度が違うので確認しましょう）

0.1%の次亜塩素酸溶液のつくり方

原液濃度5% 500mLのペットボトル1本の水に原液10mL（ペットボトルのキャップ2杯分）



ロタウイルスの予防接種について

ロタウイルスについては経口ワクチンがあります。ワクチンは2種類で、1価ワクチンは2回接種、5価ワクチンは3回接種になります。接種時期としては、生後6週間から接種できます。どちらのワクチンも接種できる時期が決められています（それぞれ生後24週、32週までに接種を完了）。その目的は、腸重積症が起こりにくい低い年齢で接種を行うためです。